

◆富山県

投稿日：2002年11月22日

氏名：渋谷 克人

所属：職員研修所および人事課



元気職場談義(オフサイトミーティングみたいなもの)の開設

【経緯】

- ・今年の春から、人材育成や意識改革等を担当
- ・意識改革については、「CSを目指し、県民の視点で職員自らがその姿勢や仕事を考え、見直していくこと」が目標として示されたが、その手法等については具体的な指示なし
- ・上意下達では人の意識は変わらないとの思いを持つため、上記目標に少しでも近づくためには、従来ありがちな「〇〇運動」や研修などではなく、個々の職員の中にある「組織人としての私」と「県民としての私」のうち、後者の立場で職員が自由に発言でき、相互に触発しあえる場が欲しいというのが個人としての希望
- ・このため、少しでも組織の風通しが良くなるきっかけになればと思い、庁議(3役や部局長の集まる最高意思決定機関)で各部局に本音で語り合える場を設置することを提案し、了解を得る
- ・その後、各部局ごとにメンバーを募集(募集パンフレット例:[別添1《元気職場談義メンバー募集中》](#))、メンバーは8部局で127名、うち応募者は49名)し、6月から、まずは職場内で、部長から若手まで役職を越えたメンバーが集い、県庁という組織に対して日頃感じていることなどについて意見を交換中
- ・各部局の運営は連絡課の主幹(組織や人事を担当し、部局を統括する立場の課長職)にお願いし、庁内で、時間内に、やり方や頻度自由で実施中(概ね2時間程度、1月に1回程度開かれているのが実態)
- ・ただ、当初の時点では私も含め、誰もオフサイト体験がなく、各自自己流で実施したため、部局間の温度差につながってしまい、メンバーからそのことに対する不満の声あり(第1の反省点:少なくとも世話をする人の間で認識や手法の共有が必要であり、一堂に会してオフサイト体験することが望ましい)
- ・また、やらされ感を持たれないように活性化するため、私(自分の属する部の世話人:事務局としての発言のみ)が率先して談義を実施し、そのノウハウや資料、感想などをすべて各部局の主幹に提供
- ・なお、このメンバーや管理職員に対し、スコラ・コンサルが提唱する改革手法や実践例を紹介していただき、議論が発展することを期待して、8月に柴田昌治氏の講演会を開催(第2の反省点:当初に実施すべき)

【最近の動向】

- ・談義の内容を職員にメールで紹介([別添2《談義だより》](#))ただし、私の部だけ)
- ・各部局間、メンバー間に温度差があり、熱っぽく議論する部局とやらされ感で義務的に議論する部局への分化やメンバー内の発言者の固定が顕著
- ・一方では、メンバーの中に、自分が意見交換したいテーマの資料を作ってきて談義の席上でプレゼンしたり、有志を募って昼時間に勉強会をしようという動き(現在進行形で実現は未定)があるなど、自主的で、改革を「一人称」で捉える人が出現
- ・また、職員から「理解のある所属長が職場内オフサイトをやっていて、自分たちのような若手の改善意見が次々と職場内で実現していくことが嬉しい」とのメールあり
- ・自分自身も談義のメンバーとなり、バラツキが生じてきている各部局談義のメンバーと直接対話したい思いもあって、各部局のメンバーのうち、思いの強そうな人を紹介してもらい、部局横断談義を実施([別添3《元気職場談義パート2参加のお誘い》](#))
- ・部局談義は、オフサイトミーティングの紹介と思いの強い人、志のある人を見つけ、ネットワークをつくっていく場としての位置付けもあるため、最近の動向もやむを得ないかの思い
- ・一方、部局横断談義は盛況で、その要因は、
 - (1)何よりも思いの強い職員が集まっていること
 - (2)少人数(9名)で、発言機会が豊富であること
 - (3)脱会自由、同志同伴可など枠にはめない自由な集いとしたこと
- ・部局談義では点でしかなかったネットワークが、部局横断談義によって、一挙に線に拡張するのを実感

私(私たち)の悩みや課題

1. 職場内オフサイトや自主勉強会などを職員に紹介する仕掛け
2. 部局内及び横断談義から出てきた提案を実現し、成功体験に結び付ける仕掛け など

- ・振り返るに、トップの強力な後押しがあるわけではなく、草の根的な活動で風土改革にまでたどり着けるか不安
- ・幸いにも、自分にはスポンサーシップを発揮してくださる上司の後押しと職務上の立場があるため、トップ層への働きかけや各部局の協力を得やすい状況にあるわけで、不安を抱いては罰が当たる可能性あり
- ・「自分から変わろう」という姿勢の自治体トップはほとんどおらず、志はあっても職務上の権限がない人達にとって、同志を探し、スポンサーたる上司の理解を得、活動を展開することは現実感のない話
- ・そのためにも、自治体トップが飛びつきそうな「風土改革パック」みたいな商品が販売され、志ある者が活動しやすい環境を作り出せないか期待

ご紹介する事例 / 富山県


経営企画部

所属、肩書きなどの立場を離れて
県庁のこと いろいろ話してみませんか？


元気職場談義 メンバー募集中

 この談義は、『気楽に』『まじめな』話をする場です。

- ・県庁のあり方や仕事のやり方に「？」や「！？」と思っているみなさん。
- ・ひとりで考えていないで、みんなで話しあってみませんか？
- ・一人ひとりが感じていることを何でも話し、聞く、それが「元気職場談義」です。

 テーマはずばり“県庁”です。

- ・県庁のことなら何でもOK♪
- ・ふだん感じていること「ここがおかしい」、「こんなものいらない」などざっばらんに話しましょう。
- ・「報告書を出さなきゃ」とか「今度まで〇〇用意しとかなきゃ」とかいうプレッシャーは全くありません。
- ・ここで話したことが*県庁を変える力*になるかもしれません。・まずは6月はじめに顔合わせ、県庁内の会議室で午後3時半頃から2時間程度を予定しています。・このほかメーリングリストも活用しながら意見交換したいと考えています。・お互い、仕事で話したことがあるか、顔ぐらいいは知っているかもしれません。部長さんから新採さんまで肩書きは問いません。・みなさんふるってご応募ください。お待ちしております。

 年5～6回（勤務時間中に）集まって話しましょう。

- ・まずは6月はじめに顔合わせ、県庁内の会議室で午後3時半頃から2時間程度を予定しています。
- ・このほかメーリングリストも活用しながら意見交換したいと考えています。

 メンバーは同じ部の15名ほどです。

- ・お互い、仕事で話したことがあるか、顔ぐらいいは知っているかもしれません。部長さんから新採さんまで肩書きは問いません。
- ・みなさんふるってご応募ください。お待ちしております

応募メ切：5月27日（月）（必着）

応募・問合せ先：元気職場談義 事務局 澁谷

応募者多数の場合は選考になります。

応募された方には、結果を後日ご案内します。

ご紹介する事例 / 富山県

談義だより

たち: *元気職場談義*も5月にメンバーを募集して17名ではじめたわけだけど、あれから5ヶ月、本当にいろんな話をしてくれましたね。これまで4回開きましたけど、「しーん...となったらどうしよう...」なんて、まったく心配することはなかったし。

しぶ:ま、あのメンバーなら大丈夫でしょう。言えんことなしというか、なんというか...

たち:あいかわらず毒舌ですね。それにしても、県庁のあり方とか仕事のやり方とか、みなさん、ふだんから思うところはあるんですね。

しぶ:この談義メンバー以外の人でも、口には出さなくてもいろいろ考えていると思うよ。談義で話し合われた内容を紹介して、それぞれの職場でも、あーだ、こーだと話してもらいましょうよ。

そもそも談義ってなに?と思われた方に...

「所属や肩書きなどの立場を離れて県庁のこといろいろ話してみませんか?」とあって、今年の5月にメンバーを募集したものです。

経営企画部では17名のメンバーが集まり、これまで4回談義が開かれています。

談義の中では、県庁のあり方や仕事のやり方について、「ここがおかしい」など、ふだん感じていることをざっくばらんに話しています。

電話の対応

庁内掲示板の「県民の目」コーナーでは、県民の方から、たびたび県職員の電話対応の悪さを指摘されているようです。

これについてもいろいろな意見がありますが、あなたは、どうすべきだと思いますか?

Nさん:確かに同じ職員でもどうかと思う人がいるよね。名前も言わず、ただ「はい」としか言わないんだよ。

Rさん:電話を受けたら、まず所属と名前を言うべきだよな。

Wさん:名前を言うと、その後いろいろと具合の悪い面もあるんだ。

Nさん:電話してきた人は担当者と話したいのだから、まず所属だけ言って、自分が担当なら名前を告げればいいんじゃない?

Jさん:県民の方はふだん銀行や病院なんかの親切な対応を受けているわけだし、それに慣れてる人が県庁の対応を受けたとき、どのように感じるかということも考えるべきじゃないかな。

民間との比較

マスコミなどでしばしば「公務員はもっと民間を見習うべきだ」という言葉を聞きますが、あなたは、何をどう見習うべきだと思いますか。

談義では、たびたび話題になるテーマですが、メンバーの皆さんもいまいち具体的なイメージが湧かず、手ごわいテーマのようです。

Dさん:よく「民間を見習え」って言われるけど、具体的にどこに違いがあって、何をどう見習うべきかよくわからないっていうか、民間と比較する具体的な方法が見えないよね。

Bさん:民間と行政では同じ土俵に乗りにくいのは分かるけど、批判されているのは共通するものが悪いからなのではないかな?

Pさん:必ずしも民間がすべて良いわけではなくて、いかに民間の良いところを学ぶかなのだと思うけど。

Bさん:民間との違いは意思決定のスピードと機動力じゃないかな?

Nさん:確かにプランを練ってから実施が決まるまで時間がかかりすぎるよね。

Rさん:県ではルールが金科玉条になってしまって、決めたらなかなか変えられないよね。民間では権限も評価もマネージャーに委譲されていたりするのに...

Fさん:他に、民間では失敗例を外に出して、次の糧としているよ。

Dさん:それに、民間とは時間だとかのコスト意識が違うよ。

Cさん:私は窓口で相手(県民)の方の話をよく聞くことを心掛けてるよ。公務員的に「こうなっているんです」では、県民の方に納得してもらえないからね。

ご紹介する事例 / 富山県

県政のPR

県のやっていることが県民の方々にあまり知られていないな…と感じることがあります。あなたはどう思いますか。

Gさん: 県が何をしているか県民の方々に説明していくことが大切だと思うんだ。県民の中には、よく分からなくて、なんとなく批判している人もいるんじゃないのかな。

Wさん: 県が出しているPRちらしなんか、文章が分かりにくいよね。

Jさん: 中学生でも分かる文章にしろさいと言われるけど、そもそも分かりやすい文章を書く訓練がされていないと思うんだけど。

Fさん: でも、例えば税金に関してあまり簡単な言葉にしちゃうと、自分の都合の良いように読まれて、後で困らないかな？

Jさん: 後の心配がないから、法令用語を使いたい気持ちもわかるよね。

Aさん: 上司が「広報用なんだから、噛み砕いて書いてもいいよ」なんて指示してくれればいいのにな。

Rさん: 県の広報物に対して、「種類が多すぎる。分厚い。上質の紙を使っている」なんて批判もよく聞くよ。

しぶ: まだ、談義は始まったばかりです。でも、ものがいえる自由な雰囲気ができつつあります。

この談義で話し合っているときと同じように、ふだんでも自分の上司や部下、そして同僚と気楽にまじめな話ができたら、もっともっと仕事も楽しく、やる気も出てくるのではないのでしょうか？

たち: この「談義だより」、今後も発行人の気の向くまま、不定期にお届けします。

談義に興味をもたれた方、機会があれば参加したい方、どしどし発行人までお知らせください。その他いろいろなご意見もお待ちしています。

発行人 元気職場談義 事務局 渋谷(内線3269) 橘(内線3263)

ご紹介する事例 / 富山県

元気職場談義パート2 参加のお誘い

～ 部局横断ミーティング～



- 皆さんは各部局の「気楽に、まじめな話をする場」のメンバーですが、実際参加されて、どの様に感じておられますか？
- また、他部局ではどのようなことが話し合われているのか、興味がありませんか？
- こうした情報交換、更には他部局の人とだからこそできる議論の場を設けようというのが「元気職場談義パート2」です。

- ・メンバーは各部局1名程度、全体で8～9名程度です。
- ・集まる回数は決めていません(メンバーの意向次第です)。
- ・県庁内の会議室で午後3時頃から2時間程度を予定しています。
- ・「報告書を出さなきゃ」とか「今度まで〇〇用意しとかなきゃ」というプレッシャーはありません。

■ ともかく参加してみませんか？

- ・参加してみて興味がなければ次回から出席しなくても良いですし、波長が合えば友人同行も可能なように、アメンバー状の場にしたいと思います。

元気職場談義パート2 発起人

職員研修所 渋谷 (内線 3 2 6 9)